

## 家庭菜園で見られる蟲たち

### 〔モンシロチョウ〕

寒い冬も過ぎ、暖かい日差しの中に舞うモンシロチョウを見るとき、私たちは春の訪れを感じるのではないのでしょうか。モンシロチョウの幼虫は言うまでもなくアブラナ科の害虫であるアオムシです。厳しい冬の寒さを、モンシロチョウは彼らの最も寒さに強い形態である蛹で過ごします。ところが近頃は蛹にならず、幼虫のままで越冬するものも増えてきました。幼虫越冬するとその期間も食物を摂らねばならず、また低温に遭うと体液が凍ってしまい、死んでしまう危険性も高いのですが、今年は1～2月の厳冬期にもキャベツを食害するアオムシがずいぶん多く見られました。こんなところにも地球温暖化の影響が出てきているようです。

モンシロチョウはユーラシア大陸が原産で江戸時代中期(1758～66)に朝鮮半島を経て日本に侵入したと考えられています。アメリカに上陸したのは1860年、その後は交通機関の発達に伴い全世界に広まり、今では世界で最も繁栄しているチョウとなっています。近年はもっぱら害虫として認識されているようですが、我が国では「ちょうちょ、ちょうちょ、菜の葉にとまれ」で始まる「蝶々(てふてふ)」の童謡でも知られるように昔から人々に愛されてきました。ただし、菜の葉に飽いたモンシロチョウがバラ科のサクラの花にとまることは滅多に無いようです。

モンシロチョウという名前がついていますが、本来は黒い紋の白蝶という意味なので、紋黒白蝶と呼んだ方がいいのかもしれません。

